



「人の気持ちを察する」

県南教育事務所長 鈴木 正和

毎朝、徒歩による快適な通勤をしていますが、季節の変化や住む人々の心配り等、ほんの数分の時間でも多くの気づきがあります。その通りは住宅が立ち並び、車が来ると立ち止まって待つほどの細い道ですが、通勤の車の往来は意外にも多いのです。しかし、車同士が立ち往生することはなくスムーズに流れています。それは、互いに対向車を見つけると数十メートル先からでも空きスペースを見つけ、通過するのを待つからなのです。つまり、ルールではなく、相手の状況を「察する」ことで、安全でスムーズな車の流れをつくっていたのです。

このような光景を毎朝目にしていて、高山義浩という医師と心肺停止状態で運ばれてきた老夫婦の話の思い出しました。老人(夫)はすでに息もしておらず、死亡と判断できる状態でしたが、医師はすぐに心臓マッサージを開始しました。5分間ほど続けた後、妻が医師に声をかけようと近づいた時、周りにいた看護師の誰もが「もう結構です」と言うのだらうと思ったのですが、妻は「私にやらせてもらえませんか」と一言。医師は、その言葉から妻の思いを瞬時に察したのでしょうか。そのやり方を丁寧に教えると、全員病室を出て、夫婦二人っきりにしたのです。妻は心臓マッサージをしながら、動かない夫に何度も何度も話しかけ、そして、昔の夫婦の思い出話等も。数分後に病室から出てきた妻の顔には涙の跡と満

足した笑みがあふれていたそうです。医師として、あきらめずに患者の命を救うことも大切ですが、命を預かり、常に生死と向き合ってきたプロとして、老夫婦だけの最期の時間こそが今は必要であることを察した姿に対し、尊敬の念を抱かずにはいられず、私にとって忘れられない話となっています。

県南教育事務所では、GW明け頃から「スタートアップ訪問」として、主に初任者を対象とした授業づくりや学級経営の仕方、支援が必要な子供への対応等、多岐にわたる指導を個別に行っております。各学校からの要請も多く、5・6月は研修会の合間を縫ってほぼ毎日のように訪問しているのですが、訪問後は、生き生きと報告に来てくれます。ある報告では「A先生は、日々の授業に自信が持てずに悩んでいるようでした。発問や見取り等、課題はあったのですが、今日はいよいよ所だけをたくさん褒めてきました。すると、A先生は涙を浮かべながらも次第に笑顔になって…」と。このようにスタートアップ訪問は、先生方の明日の元気につながる指導となっており、指導主事もやりがいを感じることができるよう。今後も人との関わりや行動が制限されている中だからこそ、様々な訪問を通して「何が必要か、何を求めているのか」を察することを大切にして、多くの先生方の心に届く指導を展開してまいります。

～『教育をあずかる者として』～

教職員の皆様には、新型コロナウイルス感染が収束しない困難な状況において、児童生徒の健やかな成長のために、それぞれの教育現場において、学習指導や生徒指導、誠心誠意職務に当たるとともに、様々な課題を克服しながら、教育目標の具現化に取り組まれておりますことに感謝申し上げます。

さて、県内の教職員の懲戒処分では、県南域内も含め後を絶たない状況が見られます。教職員の活動は児童生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすものであり、強い使命感と高い倫理観が求められます。

教育をあずかる者として、教職員は、

- ・ 子どもは大人を手本として成長します。このことを深く心に刻み、絶えず自らの姿勢を省みなければなりません。
- ・ 人権感覚を研ぎ澄まし、その職務を行うに当たり、子どもや職員の人権について、細心の注意を払わなければなりません。

- ・ 常に保護者や地域から注視されていることを認識し、私的な行動においても、自らを厳しく律しなければなりません。
- ・ 児童生徒や保護者、地域等からの訴えに対しては、真摯に受け止め、適切な対応に努めなければなりません。
- ・ 地域に支えられ、地域とともに子どもを育てる学校の一員として、豊かな社会性や対人関係能力を身につけなければなりません。
- ・ 福島県はもとより、我が国の将来を担う子どもたちの教育を託された、その職責の重さを自覚し、資質の向上に努めなければなりません。

全ての教職員は、これらのことを深く認識し、不祥事防止を自らの問題と受け止め、行動を律しなければなりません。

夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

「道徳教育と教育相談体制」

コロナ禍が続く中で、各学校においては、感染対策はもちろんのこと、児童生徒の健康状況の把握、各種会合や行事等の実施について苦慮していることと思います。このような状況下で、感染者や濃厚接触者に対する、偏見による差別やいじめは起きていませんか？こんな今だからこそ、道徳科の授業（「公正、公平、社会正義」）や家庭と連携した道徳教育が果たす役割は大きいと考えます。どのような考えや行為が人を傷つけ、差別やいじめにつながるのか、自分なりの考えをもち、誰に対しても公正、公平に接しようとする心情や態度を育てていくよう、指導の充実をお願いいたします。県教育委員会より、「新型コロナウイルス感染拡大に伴ういじめ未然防止に向けた道徳科の授業について」の動画資料やワークシート等がホームページ上に掲載されておりますので、ぜひご活用ください。



現在、児童生徒が安心・安全な学校生活を送るために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制を整備しています。各学校にスクールカウンセラースーパーバイザーや生徒指導アドバイザーを派遣し、教職員等へ支援できる事業もありますので、必要に応じてご活用ください。

「確かな学力の向上」

令和3年度のスタートから4ヶ月が過ぎました。各学校におかれましては、新型コロナウイルス感染症への対策に努めながら、各種教育活動の充実を着実に進めてこられたことと思います。そのような中、すべての学校でGIGAスクール構想による1人1台端末が整備され、中学校においては新学習指導要領が全面实施となりました。授業づくりの面においても、新たな取組に挑み、教材研究の充実が図られているのではないのでしょうか。

県南教育事務所では、**学級・授業づくりへの支援**において、今年度は「まとめと振り返りの充実」を重点として、要請訪問やスタートアップ訪問等での指導助言を行っております。ふくしまの「**授業スタンダード**」には、『**振り返り**』が、**学びを深め、次の『学びへ向かう力』を育成します。**とあります。新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、「まとめと振り返りの充実」を意識した授業づくりを進めていきましょう。

また、今年度から、重点支援の一つとして、**幼児教育への支援**を新たに位置付けました。保育の質の向上と幼小連携を主な視点として、訪問や支援を行ってまいります。

今後も各種訪問を通して、先生方の指導力向上を支援し、幼児、児童、生徒の資質・能力が着実に育成されることを目指してまいります。

「健康課題の解決のために」

今年度、「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」が健康教育課より出されました。これは、平成27年度から令和2年度までの取組「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」で生まれたレガシーをもとに、新たなステージへとスタートしたものです。

この中で、メイン事業として掲げられているのが「自分手帳」活用事業です。自分手帳は、平成27年から活用を図ってきているものの、なかなか活用しきれていないのが現状ではないでしょうか。再度、自分手帳の活用に目を向けていただき、効果的な活用をお願いいたします。そこで、忘れてはならないのが、自分手帳を活用することが目的ではなく、あくまでも児童生徒が、自分自身の健康課題を解決していくための一つのツールとして活用していくことです。一人一人の健康課題を明らかにし、それらを解決していくための自己マネジメント力を育てていけるようご指導よろしくをお願いいたします。

また、各学校において、自分手帳の活用を「学校保健計画」や「体力向上推進計画」、「食に関する指導の全体計画」等に位置付けていくことも大切です。各学校において、今年度の取組を蓄積し、さらに、来年度の教育課程に位置付けていけるようお願いいたします。なお、活用例は健康教育課HPにも掲載されています。今後も効果的な活用例等を紹介するとともに、研修会や訪問等で支援してまいります。

「特別支援教育の推進」

目指す特別支援教育の姿は、障がいのある子ども一人一人のニーズに応じた教育を、地域の幼稚園等、小・中学校、高等学校、特別支援学校で行う「共に学び、共に生きる教育」です。特別支援学級、通級指導教室で学ぶ児童生徒数の増加や通常の学級にも支援を必要とする児童生徒が在籍している現状から、特別支援学級にかかわる教員はもとより、全ての教員における特別支援教育の理解が求められています。各種訪問等で、子どもたちがそれぞれの違いを認め合い、よさを発揮しながら学び合える学級、学校づくりの一助となる指導助言を心がけてまいります。また、障がいのある子にとっても障がいのない子にとっても、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる「交流及び共同学習」の理解促進を図っていきたいと思っております。

さらに、支援を必要とする子どもが、就学前、在学中、卒業後においても、一貫した切れ目のない支援を受けることができるよう、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成及び活用や各市町村との連携等を図ってまいります。

今年度も切れ目のない支援体制整備事業として、特別支援学校のセンター的機能を活用した相談・研修支援を行いますのでご活用ください。特別支援教育課、特別支援教育センター、特別支援学校と連携を図りながら、各市町村や幼稚園、小・中学校、高等学校等の力につながる支援を心がけてまいります。

学校と地域の協働で豊かな学びの場に ～社会教育事業の重点から～

社会教育課では、「学校と地域の協働による相乗効果で地域全体を子どもたちの温かな居場所で豊かな学びの場に」をテーマに社会教育事業を展開しています。

【家庭・地域の教育力の向上】

7月9日(金)に、棚倉町立高野小学校において、「親子の学び応援講座」を開催しました。けやき心の発達診療所から角田智哉所長をお招きし、児童と保護者を対象に「ネット、ゲームとの上手なつきあい方」をテーマにした講演会を行いました。児童からは「ネットやゲームのメリット・デメリットが分かりました。ほどほどにつきあっていたいです。」と感想がありました。また、保護者からは『ダメ』と言うだけでなく、その後の行動を意識させるような声かけを心がけたい。」と感想がありました。

今後は、新たな取組として家庭教育応援企業での研修会等も開催する予定です。

【子どもたちの豊かな心を育む体験活動の充実】

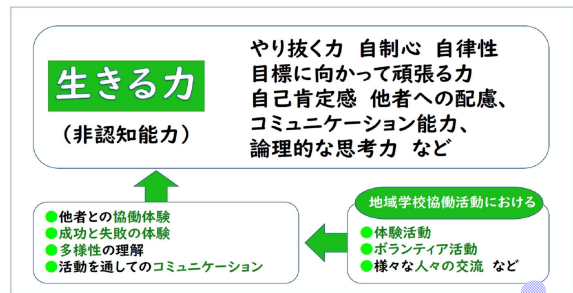
ビブリオバトル福島県大会は、9月4日(土)、白河市において高校生の部中通り予選会を開催します。予選を勝ち抜いた高校生は、11月20日(土)に福島市で行われる県大会へと進みます。また、県大会では、中学生の部予選決勝も行われます。ビブリオバトルは、一般的に書評合戦と紹介されますが、コミュニケーションの場づくりや読書推進などの教育的効果が期待されています。何よりも、人前で表現することへの自信につながる事が最も大きな効果と言えるでしょう。

【生涯学習推進による人づくり】

県南域内では、地域と学校の連携・協働のしくみである、コミュニティスクールや地域学校協働活動の導入・推進が活発化しています。

西郷村では、熊倉小学校をスタートにコミュニティスクール(学校運営協議会)の導入を始めました。また、矢吹町では、令和4年度からの地域学校協働活動事業立ち上げを目指して、体制づくりや協働活動推進員(コーディネーター)研修等に取り組んでいます。

コミュニティスクールや地域学校協働活動の導入・推進により、「地域に開かれた学校づくり」や「地域の教育力の向上」等の効果が期待されます。そして、地域と学校の連携・協働した取組により、これからの時代に必要な生きる力(非認知能力)の育成が期待できます。様々な体験活動やボランティア、地域の人々との交流による協働体験、成功や失敗などのリアルな体験が子どもたちの生きる力(非認知能力)の育成につながります。



小学校紹介

「その子らしく輝く！」

白河市立表郷小学校

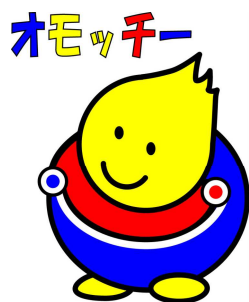
表郷小学校は、表郷村の5つの小学校と1つの分校が昭和56年に実質統合し、今年度、41年目を迎えました。

シンボルマークは、オモッチー。おきあがり小法師のように丸く、転んでも転んでも、最後まであきらめず、何度も何度も起きあがります。そして、オモッチーは、赤い女の子の腕と青い男の子の腕を持ち、みんなと仲良く助け合うことが大好きです。

そんなオモッチーのように、表郷小学校の子どもたちは、仲良く助け合い、最後まであきらめずに頑張り、一人一人がその子らしく輝いています。

目を見て、はっきりとした口調であいさつをする2年生のAさん。立ち止まり、深々とおじぎをしてあいさつをする4年生のBさん。目印のカラーコーンを集会後、さっと集める5年生のCさん。「やります！」と言ってさっと手伝う6年生のDさん。

子ども一人一人の輝きに心躍らせ、「その子らしく輝く子どもが育つ学校」づくりに職員みんなで取り組んでいます。



「行学一如」の精神を礎に

中島村立吉子川小学校

本校は、吉岡・二子塚・川原田の三ヶ村が併さり吉子川小学校として創設されました。校門を入ると、「行学一如(ぎょうがくいちにょ)」の文字が刻まれた石碑が佇んでいます。「行学一如」とは「学ぶ」と「行う」ことは同じ意味であり互いに影響し合って発展していくという禅における教えです。

本校では学校運営・経営ビジョンに、体験活動や交流を「行」ととらえ位置づけています。6年生が1泊で実施するブリティッシュヒルズでの異文化体験、北京オリンピック出場経験のある千葉麻美選手との交流、地元川田神社の狛犬の学習によるふる里再発見学習、本村の農産物であるトマトや米糍を原料とした「トマト甘酒」の学習等を実施しております。さらに今後も様々な方々との交流(体験活動と交流活動)を大切にし、「行学一如」の精神が根づいた子どもたちがいきいきと学ぶ学校となるよう、児童と共に、教職員と共に、地域の皆様と共に、より一層学びの質の向上を図ってまいります。



新任の先生方から



「残りの2年間」

埴工業高校学校

校長 田畑 淳

新任校長として着任した埴工業高校は、生徒は素朴で純粋、職員は活気にあふれ、地域から愛され必要とされている学校だとつくづく感じています。残念ながらそんな素晴らしい本校も今年を含めあと2年で74年の歴史に幕を閉じ統合となります。これからの2年間は、統合後の新しい職業系高校の第一歩へ向けた準備とともに、本校で学びたいと入学してくれた（くれる）生徒の学びを最後まで保証し、地域を支えてくれる人材へと育て送り出す責任があります。教職生活の残りの2年をかけて精一杯取り組みます。



「汝何の為に其処に在り也」

白河市立信夫第二小学校

校長 木戸 美智子

最後の1年がスタートした。本校は今年度で閉校である。二度と来ない毎日、やり直しのきかない日々である。新任であるという甘えを捨て、最高の1年にすべく、仲間とともに学校経営・教育活動に励んでいる。

「自分がやらなきゃ誰がやる」そんな強い気持ちをもつことができているのは、地域の皆様の温かい言葉と協力、少数精鋭の教職員の情熱、そして何より子どもたちの笑顔のおかげである。「汝何の為に其処に在り也」いつ、どんな時、どこで、誰に、この問いを発せられても即座に断言できる自覚ある生活を送っていきたくと思う。



「可能性と想像力」

矢吹町立矢吹小学校

教頭 石井 隆之

運動会「チャンス走」、スタート時の子ども達の顔が好きです。運動が得意な子も、苦手な子も、みんな「1位になれるかも」「ワッペンがもらえるかも」と自分の可能性を信じ、期待に満ちあふれているからです。

教頭の仕事は思っていた以上に忙しく感じます。子ども達との時間が少なく寂しい気持ちもあります。しかし「この書類を作成すればあの子が成長できる」「この研修手続きをすれば先生方に力をつけられる」と想像しながら職務に当たり、子ども達と先生方の可能性を広げていけるよう頑張っていきたいと思えます。



「道しるべ」

鮫川村立鮫川中学校

教頭 大山 和子

この度の人事異動で、石川郡から鮫川村へ異動して参りました。この辺の地理をご存じでない方々からは、単身赴任かと問われますが、私の住んでいる古殿町からは約15分、他地区なのに今までで1番近い学校です。仕事の内容が180度変わり、戸惑いばかりの4月、新緑に魅了されながらやっぱり余裕のない5月。これから取り組んでみたいことが沢山あります。明るく素直な生徒たち、前向きな先生方、そして協力的な保護者の皆様の笑顔を『道しるべ』に、様々な願いを込め、今日も強滝の流れに沿って、勢いよく坂を上って行こうと思えます。



「丁寧に」

西郷支援学校

教諭 金成 音々

今年4月、初任者として西郷支援学校に着任しました。毎日が学びの連続です。支援の仕方、伝え方など、どれも方法は1つではなく、一人一人に合った支援をすることの難しさを痛感しています。また、丁寧に丁寧に子どもたちとかかわる先生方の姿を見て、素敵だな、自分もそうなりたいなと思えます。先輩の先生方にご指導をいただきながら、とことん悩んで考えて、より良い支援・指導につなげていきたいです。子どもたちのために自分にできることは何かを常に考えながら、学び続けていきます。元気に笑顔で頑張りたいと思えます。



「子どもたちのために」

棚倉町立棚倉小学校

教諭 蛭田 愛佳

棚倉小学校に着任して最初の職員会議で、校長先生から「置かれた場所で咲きなさい」という言葉をいただきました。縁あって着任したこの棚倉小学校で巡り会えた目の前の子どもたちのために、努力することを忘れてはいけなと感じました。

本校の子どもたちは、キャリア教育として「なりたい自分になるために」日々目標に向かって取り組んでいます。そんな子どもたちに負けないよう、児童と共に努力し、その頑張りや成功を共に喜び合いたいと思えます。自分の花を咲かせられるよう頑張っていきます。